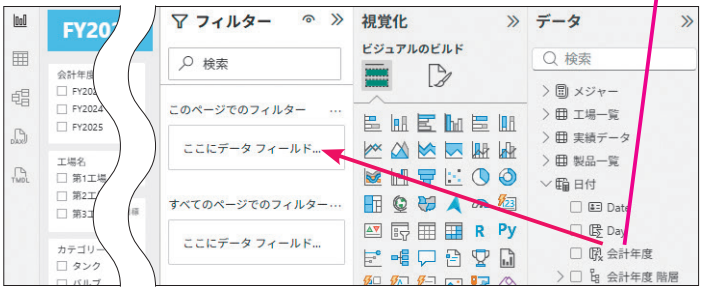
ページ内のテキストボックスを編集する

7 「FY2025」に変更

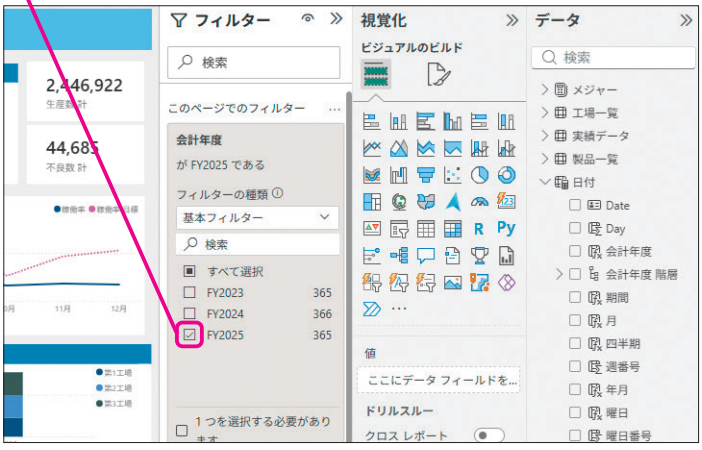
8 ここをクリック



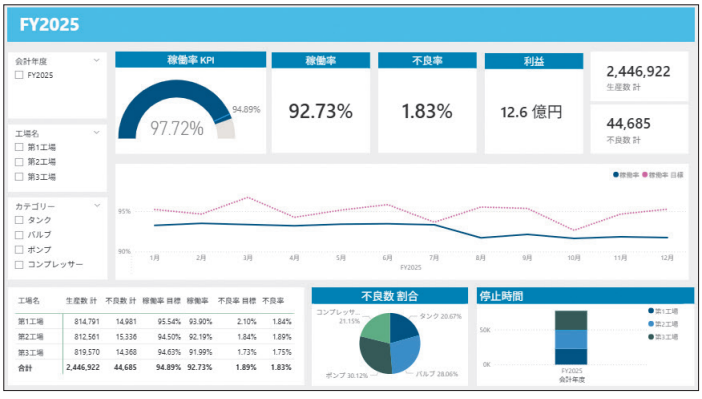
9 [会計年度]を[このページでのフィルター]のここまでドラッグ



10 [FY2025]のここをクリックして、チェックマークを付ける



[会計年度]が「FY2025」のデータのみでページ全体がフィルターされた



使いこなしのヒント

レポートレベルフィルターは“使う場面が限定的”

レポート全体に適用されるフィルターは、一見便利に思えますが、実務では利用頻度は高くありません。その理由の1つは、レポート全体で不要なデータはそもそも取得しないことが多いためです。一般的には、Power Queryの段階で前処理を行い、必要な年度だけを取得したり、不要な製品カテゴリーを除外したりして、データモデルを事前に絞り込み、シンプルに保ちます。このように、不要なデータはインポート前に絞り込むのが基本です。

使いこなしのヒント

フィルターウィンドウはレポート利用者向けではない

フィルターウィンドウはレポート利用者側でも操作できますが、実際にはレポート利用者が使いこなす場面は多くありません。フィールド構造やデータモデルの理解が前提となるため、意図しない絞り込みがかかったり、想定外の結果が表示されるといったリスクがあるためです。そのため、フィルターウィンドウは主に“レポート作成者が調整するための領域”と考えるほうが適切で、レポート利用者にはスライサーなど分かりやすい操作手段を用意しておくことが一般的です。